

# スハフ 43 の塗装を変更

## 旧特急「はつかり」色に



見事塗り替えられたスハフ 43 2 号

撮影：小城崇史

大井川鉄道に入線以来、茶色の塗装で走ってきたスハフ 43 も最近では塗装の傷みが目立ち、私たちの手で行ってきた部分的な補修では追いつかなくなってきました。

そこで、ついに全面的な塗装を行うことになり、4月15日の運転日までに2号が、5月20日の運転日までに3号のお色直しが無事終了しました。

塗り直された色は、初代特急「はつかり」の青地に白帯で当時の美しい姿が再現され、運転日に目にしたボランティア達も見入っていました。

## トラストトレイン運転報告

4月15日 第1回運転日

ボランティア参加者 21名

乗客 下り40名 上り62名 計102名

5月20日 第2回運転日

ボランティア参加者 20名

乗客 下り104名 上り31名 計135名

次回の運転日は6月17日(土)です。

ちなみに、それ以降は7月15日、8月26日、9月9日、10月7日、11月25日のいずれも土曜日が運転日となっております。

皆様のご参加をお待ちしております。

# トラストレイン 3月の補修について

海老原 英治

会報等でもお知らせした様に、3月18日(土)・19日(日)大井川鉄道家山駅構内で、昨年に引き続き、客車の補修と清掃のボランティアが行われました。

鉄道誌に案内のあった事もあり2日間で延べ50名以上の方が参加して下さい、大変な賑わいを見せました。

今回の補修の内容は、スハフ43 3が

- ・デッキ天井の再塗装
- ・床リノリウムの補修
- ・窓枠の補修と塗装

オハニ36 7が

- ・各座席の暖房管(SG管)カバーの塗装

それと2両の車内清掃とオハニ36の車体のワックス掛け、そして恒例の「ふとんたたき」である。

また前回の会報で報告のあった、元スハニ35の解体部品の一部のパーツ取りを行った。

スハフ43 2は、塗装工事のため新金谷の工場に入場中で、今回の補修作業はお休みであった。(財団・大井川鉄道の御好意により、入場中の姿を見ることができ

たが、後述する。)

では、今回の補修ボランティアを振り返ると...

18日11時頃から家山駅でミーティング。

補修内容の説明と自己紹介の後、まずは昼食の買い出しに。

車中での楽しいランチタイムの後、4班に別れて作業開始である。

デッキ塗装組は、熊谷さん・伊藤さん・松本さんらを中心に、昨年の車掌室の塗装の時と同様にスクレーパーと呼ばれるヘラを使用し、古い塗装を剥離していく。

この剥離作業はかなりの重労働のため交代しながら行い、開放された人は解体部品のパーツ取りを行なう。

今回は窓からラッチ、窓の開閉の時に摘む金具と滑車を、また外板ごと切り取ってもらった愛称板受け等の取り外しを行った。

剥離作業が進行するうち、予想とは大きく異なる点が判明。天井が鉄製だったのである。

計画した時は特に確認はせず(こちらのミスです)木製のつもりで、昨年と同じ工程「全面剥離」を

考えていたが急遽変更し、浮き上がった古い塗装とその周囲までの剥離とし、鉄板の露出した部分は、ジंकプレートと呼ばれる亜鉛を含んだ防錆塗料を吹きつけ、乾燥後塗装することとした。

窓枠の組は、渡辺さんを中心にやはり長年の使用でボロボロになったペンキの剥離からスタート。

サンドペーパー、場所によりオービタルサンダー(電動のやすり)も併用し、作業を進めて行く。

傷みの目立つ所は地肌が見えるまで削り取り、塗装の地下作りをしていく。

この班には女性2名が加わり(滝本嬢・渡辺嬢)班の中でも一番華やかな(賑やかな?)班でもあった。

床は後藤さんをメインとして作業が進む。

スハフ43 2に比べ余り傷みの激しい箇所はなく「何故これ程傷み具合が違うのか不思議だが...」通路の中央部の亀裂とデッキ周囲及び車掌室の一部にシリコン系の充填剤を注入し、乾燥するまで上からマスキングテープを貼り、踏まれない様対処した。

暖房管カバーの組は、長谷川さんをチーフに、こちらもオービタルサンダー、ディスクグラインダー等で、段差の生じた古い塗装をカバーの地肌が見える位まで削り取り、平滑にしておく。

各剥離作業とも削った塗膜が粉となって舞い上がり、防塵マスクは必需品で、時期も重なり、花粉症の人には特に辛い作業であった。

午後2時半にコーヒープレイク。



一服した後作業再開。

各班とも作業が進行していく。

デッキ塗装組は、塗膜の剥離が終わり、周囲をマスキングして下地の吹きつけ作業。

窓枠組も塗膜の剥離、下地処理が終わり、ローラーバケで塗装作業中。今日中に一回目の塗装は終了しそうである。

また暖房管カバーの組は、各カバーの剥離作業が進行しており、この後シンナーで空拭きをする。

一方パーツ取りの方は、持ってきた窓からの金具取りは全て終わり、愛称板受け、テールライト掛けの各パーツ取りに作業は移行しているが、幾重にも塗り重ねられたペンキの厚さに悪戦苦闘中。

午後4時半頃からぎりのついた班から順次作業を終了し、午後5時過ぎには、全員が客車を後にした。

宿では、総会の後、いつもの如く宴会の部に移り、日帰り参加の方にも9時過ぎまでおつきあい頂き、お互いの懇親を深めた。

19日(日)は午前9時から作業開始。

宿泊数と布団の兼ね合いでB寝台(押入れ)で一夜を過ごしたり、寝言・いびき等の被害で寝不足の向きも若干見られたが、今日は天気も良く、まずは「ふとんたたき」の準備からスタート。

客車から運び出されたシートは、線路を枕に約半年振りの日向ぼっこである。

続いて昨日同様、各班に別れ作業に移る。

デッキ塗装組は、ジंकプレートに吹いた部分の塗装作業。これに用いる塗料は、昨年小村さんに調合して頂いた水性塗料であ

る。

続いてドアの傷んだ部分にも手が入る。工程は昨日と同じで、既に剥離作業は終了している。

窓枠組は2回目の塗装中。塗重ねることによって塗膜が厚く頑丈なものになる。

また残った塗料を利用して、昨日手のつけられなかった場所にも着手。結果としてほぼ7割方の窓枠の塗装作業が終了した。

また一部側壁に大きくひび割れの出来ていた場所は、木工パテで塞ぐ処置をした。

暖房管カバーの組も塗装作業中。ペンキとシンナーを3:1の比で混ぜ、ローラーバケ等で塗っていく。

カバーの塗装が終わると乾燥するまでの時間を利用して、各座席の脚廻り鉄製の部分を塗装。

残ったメンバーはオハニの荷物室から備品出し。

いや～荷物の多いこと!普段使用しない物はどこかに保管できると、室内ももう少し広く使えるのだが。

続いて掃き掃除、床のワックス掛けを実施。

11時半にランチタイム。時間差

で買い出しに行った数名は米の飯を買い損ね近くのスーパーに走るが、店員にあんたら何?と疑われる。(服装か?あるいは人物そのものか?)

午後0時半作業再開。

窓枠組は作業が終了し、オハニの車体のワックス掛けに移る。

午前中に窓から下は終わり、午後からは足場を組み、上の部分を実施。

この車両、海側(千頭に向かい右側)の塗装の劣化が著しい。日の当たり方の差に因るものか?次の塗装工事では是非オハニの再塗装を!と思った次第。

デッキ組はドアの塗装も終わり、車掌室備品入れのペンキの剥離。

下から木の地肌が見えてくる。塗装を全て落とし、ニス塗りで仕上げたが、やはり木目は美しい。木目の生かされている部分を、この様にできれば良い雰囲気が出る。

何時か車内についても実施して見たいものだ。

暖房管組は、カバーの二度目の塗装。

特にこの部分は普段乗客が足



を乗せる機会も多くなるべくペンキが剥げない様、厚めの仕上げとなる。

一方、かなりの苦戦を強いられたパーツ取り先終了し、車内のペンキの乾いたところから順次清掃開始。

外では「ふとんたたき」の最中で、なかにはシートに向かい日頃のストレスを発散させ過ぎ、腕を痛めた氏もいるとか...

荷物室に備品を戻し、改めて各室内を見渡すと、二日間の補修の成果は大。まるで全検あがりの様なピカピカな車内であった。

またオハニの外板は、夏の補修の時と同様の輝きを取り戻した。

川風も冷たくなってきた午後4時20分、春の補修ボランティアは終了した。

今回も大勢の方の参加があり、また、初めての方も多数参加して下さいました。

賑やかに、またある意味で新鮮に作業が進められたかと思えます。

こちらの不手際が色々あり、御迷惑をおかけしたが、関係された皆さんのお陰で無事に終了することができました。

ここに厚くお礼申し上げます。

## スハフ 43 2 工場入場中の姿を見て

3月18日午後3時過ぎより、財団と大井川鉄道のご好意により、塗装変更のため新金谷の工場に入場しているスハフ432の姿を見ることができたので、その様子を報告したい。

客車は塗装の下地作業中で、車体の茶色と部分剥離した跡の鋼鉄の銀色が入り混じり、全身斑模様の状態であった。

財団と大井川鉄道との補修作業の打合せ内容はよく分からないが、根気のいる作業を行っているとの感を覚えた。

塗膜の浮いた部分、鋼鉄の腐食が著しいと覚しき部分を、剥離・研磨している様子が伺え、その箇所は、全体で数十箇所にも及んでいる。(この剥離作業で周囲の塗膜が年輪の様に削られ、新製当時から現在に至る塗装の変遷も見ることができ、初めて「青大将カラー」の実物もかいま見ることができた。)

既に腐食の進行が著しく、鋼鉄に穴の開いている箇所も数カ所見られた。(便所廻り及び車掌室妻面の窓の上あたり等)

この様に穴の開いた箇所には、アルシートを裏打ちした後、パテを盛るといった比較的簡便な方法で処置される様だ。

また、側柱と鋼板(側板)の溶接部で離脱著しい部分が数カ所見られたが、この箇所は大井川鉄道で再度溶接するとの話であった。

今回の補修に関しては、2輦で約400万円程度かかるとのことであるが、これによって恒久的補修になるとは思えず、改めてそのコストについて考えさせられた。

(コメント 森下 義人)



補修前の外部の穴と塗装の縞模様



座席の足廻りも塗装する

# 復活の汽笛 京都に響く

C57 1号機復活イベント 梅小路蒸気機関車館にて開催

1月17日に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)で、鷹取工場に入場中に被災し、その安否が気遣われたJR西日本のC57 1号機であるが、修理が無事完了し、5月3日から7日まで、京都の梅小路蒸気機関車館にて復活セレモニーが開催され、つめかけた多くのファンや家族連れに蘇った美しい姿を披露した。

C57 1号機といえば、昭和36年2月9日、羽越本線での脱線大破

事故からの復活がよく知られているが、今回の地震も、一歩間違えば復活出来なかった可能性もあり(事実、長田区で発生した大火は兵庫区にも燃え広がり、鷹取工場の東側を通る道路までを焼き尽くした)本線の早期復旧や損傷車両の修復といった多忙なスケジュールの中、JR西日本関係者のご苦勞は並大抵ではなかったことと思われる。

C57 1号機は、昭和12年3月に

現在の川崎重工業の前身である川崎車両神戸工場で落成、最初の試運転は鷹取機関区を拠点に山陽本線にて行われた。また、やまぐち号復活後は、鷹取工場にて整備を受けるなど、神戸と非常に縁の深い機関車であり、地震からの復活も、何やら因縁めいたものを感じさせる。

C57のように、神戸も早く復興してほしい、心からそう願っている。

小城崇史



悪天候にも関わらず多くの人がつめかけた



復活記念のヘッドマークを付けばく進するC57 1号機



美しく修復されたC57 1号機

# 廃線 10年目を迎えた加悦 SL 広場

黄 葆生

1995年5月3日、加悦鉄道の廃線から10年を経たカヤ興産加悦SLの広場を3年ぶりに訪れた。前回1992年に訪れた時も明治26年製ハ4995客車の原型復元とドイツ製ハプ3の再整備等、廃線後も脈々と続くこの会社の鉄道への愛着が感じられたが、今回も又大きな保存への前進が見られた。概要は次の通りである。

## 1)内燃気動車キハ51のキハユニ二への復元

現役時代、両端に小荷物を積める無蓋のスペースがある事で人気のあった昭和11年製キハ51は、1952年船木鉄道へ払い下げられる以前の国鉄時代、郵便を積み込む荷物室があった。中では郵便物の宛先別仕分けが出来る仕切り箱もあったと言う考証の下それが復元され、当時のニス塗りに近い色合いに客室内部も再塗装された。

## 2)ハ10付随客車の2・3等合造車への復元

明治客車が3両あるこの客



車群の中では比較的‘新しい’大正15年11月つまり昭和になる直前の製造である。当時一等は専用の客車を使っても、閑散線区では二等・三等が同じ客車の中にある場合が多かったようで、それを考証の上復元した。こうやって見ると定員は別にして二・三等の違いは背中部分のモケットの有無だけだったようである。

## 3)フハ2客車の再整備

大正5年製造の2軸客車であるが、主に天井と床の材料を張り替え、ニス塗りを施した模様である。ハプ3・ハ4995同様、天井の白熱灯が印象的であった。

## 4)南海1201型1202号の‘入線’

3月末に貴志川線を引退したばかりの車両である。トップの1201と共に昭和8年南海天下茶屋自社工場製作である。関西私鉄大手5社中殆ど最後の吊掛駆動車であると同時に、南海本線往年の特急・急行用名車であるために保存が望まれていたが、カヤ興産が南海に4月初旬連絡した時、1201号はすでに解体。この1202もあと数日で同じ運命にあう所だったと言う。非電化路線だったここに電車が入るのは少しイメージが合わないが、とにかく名車が保存されたことを素直に喜びたい。

## リニューアル移転

加悦町の再開発の一環で役場がこの旧加悦駅構内に移転する事になった。このSL広場はカヤ興産本社共々ここから約2.5?南、ニッケル鉱山へ向かう専用線の終点だった場所に現在より広い土地を確保し造成中である。向かい側に国道176号線の‘道の駅’が出来るのは、時の流れと言うべきか歴史の皮肉と言うべきか。新しい場所では将来エンドレス線を敷いて、まずはディーゼル動車による動態保存を目指す計画である。なお



キハ51から復元されたキハユニ二 51



キハユニ51客室



2・3等合造に改造されたハ10客車



ハ10客車の2等から3等を望む



キハユニ51郵便室仕分け箱

野田川(旧丹後山田)から加悦駅を通過してここまでの約8.2?の線路跡はサイクリング道に生まれ変わる。完成はいずれも96年9月の予定である。現在の駅舎兼本社の大正建築は町役場になっても残るかどうか定かでないが、カヤ興産としては新しい場所に同じ設計の建物をもう一棟建て、広場の事務所にする予定である。



再整備されたフハ2客車

# 思い出の写真館

26

## 軽便蒸気の思い出

西武山口線のコッペル

今は昔、西武鉄道山口線ありけり。軽便蒸気機関車の木造客車を牽きて走りけり……。

西武鉄道山口線は、ユネスコ村近くの約4キロの軽便鉄道であった。バッテリーロコが金属製客車を牽引していたが、私の中学時代に（私は昭和32年生まれ）コッペル製SL『頸城鉄道2号機』が入線しSL運転を始めた。その後、井笠鉄道1号機（コッペル製SL）や井笠鉄道木造客車が入線し、SLファンには楽しい軽便鉄道となった。



高校時代に国鉄のSLが消えたが、私は気分転換をかねて浪人時代には西武山口線を数回訪れた。当時の私は「西武山口線に行けばいつでも蒸気機関車に会える」と思っていたのだが……。

大学入学後、私は自然探勝に興味を持つようになり、西武山口線への関心が薄れてきた。そして……社会人となって、鉄道雑誌にて「新交通システム導入にともない西武山口線廃線予定」のニュースを知り、コッペルに別れを告げに行った。

今思えば、SL列車が1日数往復走り、勾配もあつて気軽に撮影が楽しめた。春には桜がきれいであった。もつとまじめに撮影しておくべきだったと後悔している。

伊藤栄一



## 95年度 関西サークル行事のお知らせ

さきに95年度行事予定をお知らせした後に阪神大震災が起こりました。

会員の中で災害に遭われた方も居られ、改めてお見舞い申し上げるとともに、震災に依る変更・取り止めのお知らせを致します。

- 4月8日(土) 名古屋方面見学会は中止します。
- 5月7日(日) 予定通り例会(交通科学館 13:00 より)
- 7月2日(日) トラスト例会(交通科学館 13:00 より)
- 7月23日(日) 和田山~舞鶴方面見学会
- 8月26日(土)~27日(日)トラストトレイン・ボランティア
- 10月10日(祝) 京津・インクライン・疎水見学
- 11月5日(日) 例会(今年最後の例会)

### 「和田山機関庫と舞鶴煉瓦建物・煉瓦博物館」見学会

7月23日(日)

京都 8:15 京都8時15分、大阪8時45分の姫路行き「新快速」の最後部車両に集合します。

大 阪 8:45

姫 路 9:46

姫 路 10:05

和田山 11:38 和田山での見学時間が短いですが、駅構内なので24分で見学可能。迅速に行動して下さい。構内横断時列車に注意。明治45年造、二線。

和田山 12:02

福知山 12:42 福知山は昼食タイム。駅周辺でご自由に。

福知山 13:27

東舞鶴 14:27 煉瓦博物館まで徒歩20分。煉瓦トンネルと煉瓦建物群を見てから「煉瓦博物館」に入館します。時間は充分あります。

東舞鶴 17:03

綾 部 17:55 綾部 17:59

福知山 18:15

福知山 18:55 京都 20:01

大阪 21:17 大阪 20:44

帰途は、大阪へは京都経由の方が早い。宝塚周辺の方は、福知山線経由の方が便利かも。

京都発8時15分、大阪発8時45分の姫路行き「新快速」の最後部車両に集合します。時間に余裕のある方は「新大阪」から乗車して下さい。座席がとりにやすいので。

予約は不要です。

「青春18切符」を使用します。あらかじめ、各自でご購入下さい。

費用 博物館入館300円

資料代100円

「青春18切符」は、一枚なら2,260円です。

3月5日に計画していた見学会を、阪神震災のため延期開催としたものです。

問い合わせ先 網谷りょういち  
Tel. Fax 075-621-6371

# いんぷおめいしょん

## 1995 年度鉄道サークル会費徴収のお知らせ

大変遅くなりましたが、1995 年度の鉄道サークル会費を以下の通り徴収いたします。  
会費 2,000 円 + テレカ製作基金一口 1,000 円 (任意)

### 納入方法

1. 郵便振替 (同封の振替用紙)
2. 直納 (財団事務所)

口座番号 00140 7 408646

口座名 日本ナショナルトラスト 鉄道サークル

締切 7月15日 (遅れる方はサークル担当者まで連絡を下さい。)

ご注意 事務処理のシステム変更により、期日を過ぎた場合はサークルの名簿より名前が抹消される場合があります。

又、財団の口座に振り込まれる方がおられますが、財団の経理担当者に負担がかかるばかりか、事務処理の停滞にもつながりますのでご協力をお願いします。

### 鉄道サークル総会のお知らせ

開催日 11月11日(土)・12日(日)

場所 修善寺・虹の郷

以上、とりあえず開催日と場所のみ決定いたしましたので、お知らせします。

なお、詳細につきましては決まり次第お知らせします。

新たな車内販売グッズを...

と言うわけで、そろそろトラストレインの車内で販売するものに新しいものを加えたいという事で、幹事会で相談した結果ひとまずテレホンカードの製作をしてみることになりました。つきましては先立つものがある程度必要になるので、「テレホンカード基金」としてサークル内部から募金を集めたいと思います。出資してもいいという方がおられましたら、同封の振替用紙に口数を明記の上ご送金下さい。よろしく申し上げます。

それと、新たな車内販売グッズのアイデアなどございましたらお知らせ下さい。

### トラストトレイン運行記

4月15日(土) 今年度第1回目のトラストトレイン運行。スハフ43 2の塗装工事が完了し、オールドファンには懐かしい初代特急はつかりの塗装が復活した。(スハフ43 2のカラー写真は鉄道四誌の7月号に掲載されています)

5月20日(土) 第2回目のトラストトレイン運行。客車の

塗り替えが完了し、おまけに大鉄のスハフ42、オハ47の二両のブルーの客車も増結された。上り列車の運転時に、下り列車が故障のため家山～笹間渡間にて立ち往生し、30分ほど待避停車した下泉駅にて会員が客車にワックス掛けを始めるといふハプニングがあった。

日本ナショナルトラスト 鉄道サークル会報 第72号 1995年5月号

〒100 千代田区丸の内2-4-1 丸ビル414区 Phone 03-3214-2631 Fax 03-3214-2633